

第三部

環境改善計画

子ども達の安全なまちに向けたワークショップ

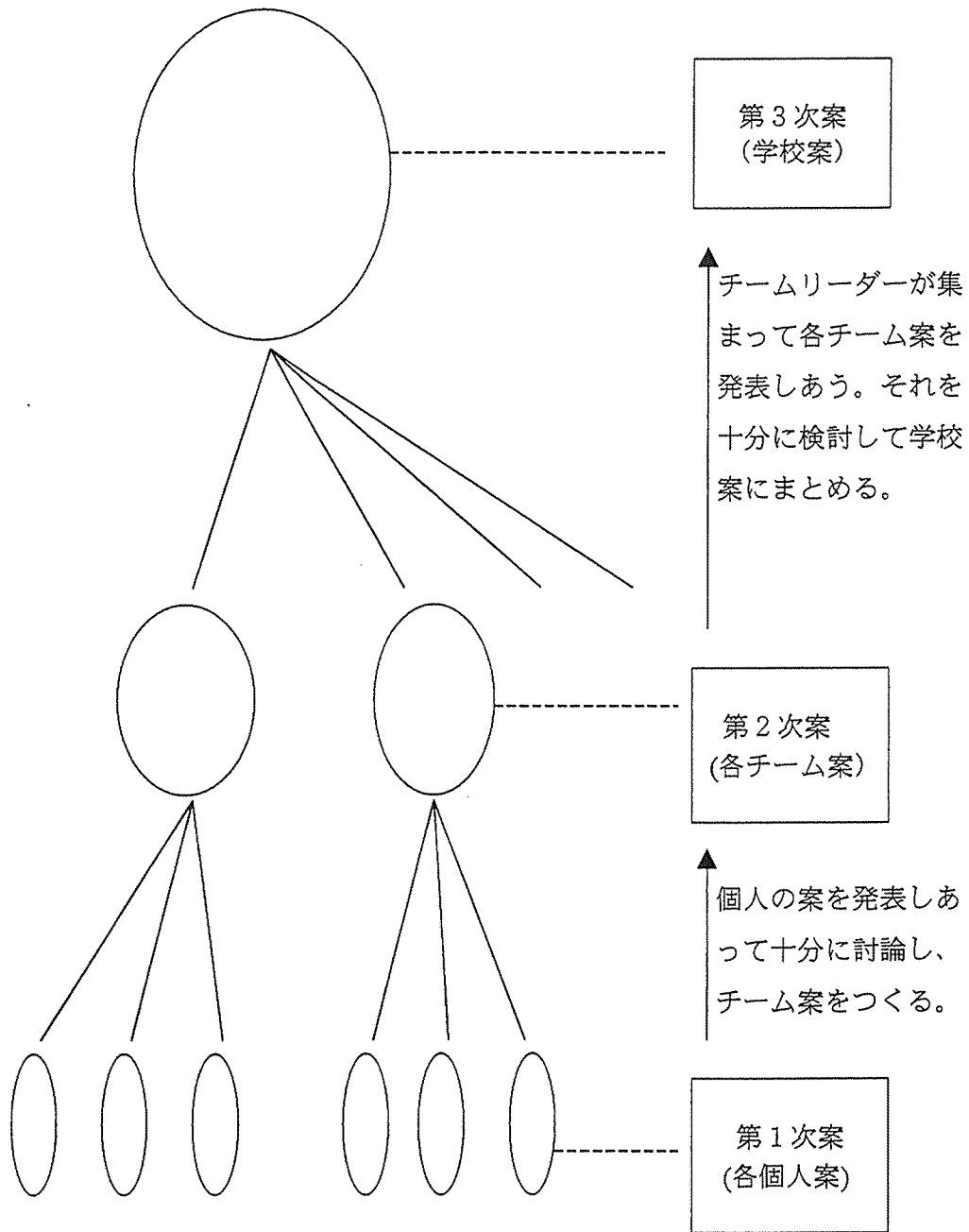
1. ワークショップによる改善計画づくり

一部と二部の結果をふまえて、犯罪危険地図に示された各危険箇所について、保護者を中心に教職員、子ども達、自治会役員等で5人程度を1チームとして、現地踏査をおこない、各箇所の危険要因と改善策を検討した。

各人の作成した改善策を第一次案、それを持ち寄ってチームで一つの案にまとめ（二次案）、それを持ち寄って学校で一つの改善策（第三次案）を作成した。

参加人数は、学校によって大きな差をみせた。全体の参加者が100名を越える学校、教職員の殆どが参加した学校がある一方で、PTAの担当役員の域を出ない学校もあった。

<ワークショップの流れ>



学区の危険箇所を
歩いて点検する

学校全体責任者用 注意事項

- ・ワークショップの参加者全員に、事前（当日まで）に次の事を必ず指示してください。
 - ・エンピツ又はボールペン等の筆記用具、下敷きになる物、ダブルクリップを持参すること。カメラ等のある人は持参するとよいこと。
 - ・水筒、汗ふき等を忘れないこと。軽装で動き易いことと、両手が使える服装が望ましいこと。
- ・各チームの改善案がまとまったら、チームリーダーを集めて全体で各チームの案の発表会をおこない、それらについて十分に検討して、学校で1つの改善案を作成してください。
- 発表会での検討には十分に時間をかけ、できるだけ具体的な案をつくるように努めてください。
- ・全ての作業が終了したら、総括表を必ず記入してください。

チームリーダー用 注意事項

- ・各チームに「まちの犯罪危険地図」と、公園の犯罪危険図が1枚ずつと「主な犯罪の状況」が1部ずつ配布されています。「まちの犯罪危険地図」の○内の番号と、「主な犯罪の状況」の○内の番号は整合しています。
(地図の①の所では「主な犯罪の状況の①のような犯罪の危険が発生しているということ」です)。

公園の地図には犯罪の危険箇所があまり示されていませんが、それは子ども達が公園の地図に記入してこなかったためです。

地図の赤色の印は風俗犯、緑色は粗防犯の危険箇所です。

以上の事をチームメンバーに最初に説明してください。

- ・各地点をまわって各個人が「改善案づくり」の用紙に書き込む時には、他人と相談せずに記入するように注意してください。
- ・各人の案を発表しあってチームの案をつくる時には、十分に時間をとって（少なくとも2～3時間）、よく話し合い、できるだけ具体的な案をつくるように心がけてください。
- ・チームの案をつくりあげる時には、個人の案の時にはなかった「主に誰れがやるのか」と「いつ頃までにやるのか」という項目がありますので、そこもみんなで検討して記入を忘れないようにしてください。

ワークショップ参加者用 注意事項

- ・各自の「改善案づくり」は他人と相談しないで記入してください。
- ・改善案は、できるだけ具体的に書いてください。簡単な図（絵）や写真なども使って示すなどの工夫もしてほしいです。
- ・改善策には、いろいろな内容が考えられます。建物や樹木等の改善に関するもの、人の流れや自動車に関するもの、周辺のコミュニティーに関するもの、大人や子どもの日常生活に関するもの、警察や行政の活動に関するもの…。どんな視点からでも考えられることは何でもあげてください。
- ・チームでの発表会にも十分に時間をかけて、他人の意見を聞きながら、できるだけいい案をつくるのにリーダーに協力してください。

- ・ワークショップ全体の感想を書いてください。（リーダーに提出）

() 小学校 (母・父・教師・子ども・その他 [])